

守山企業景況調査報告書

(第17回)

平成25年10月～平成25年12月期 実績

平成26年1月～平成26年3月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 25 年 10 月～平成 25 年 12 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	20	100.0%
製造業	13	12	92.3%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	20	17	85.0%
卸売業	6	6	100.0%
合計	71	66	93.0%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 25 年 10 月～平成 25 年 12 月、見通しを平成 26 年 1 月～平成 26 年 3 月とし、調査時点は平成 26 年 1 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 25 年 10 月～12 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 25 年 10 月～12 月期の調査結果では、業況、売上高、資金繰りが改善したが、採算（経常利益）は悪化している。

<業況>

業況 DI は▲3.2 と前回調査に比べて 7.2 ポイント上昇した。業種別では、小売業が 21.1 ポイント上昇の▲36.8、製造業は 15.0 ポイント下降の 25.0、建設業が 23.5 ポイント下降の 18.2、サービス業が 5.0 ポイント上昇の▲20.0、卸売業が 50 ポイント上昇の 50.0 であった。小売業、サービス業、卸売業が上昇したが、製造業と建設業で下降した。1～3 月期の見通しは、全体で▲15.3 と 10～12 月期の実績から 12.1 ポイント下っている。

<売上高>

売上高 DI は▲3.0 と前回調査に比べて 2.8 ポイント上昇している。業種別では、小売業が 5 ポイント下降の▲55.0、製造業が 3.1 ポイント下降の 33.3、建設業が 2.3 ポイント上昇の 27.3、サービス業が 8.2 ポイント上昇の▲11.8、卸売業が 16.7 ポイント上昇の 66.7 となった。小売業と製造業が共に下降したのに対して、建設業、サービス業、卸売業が上昇している。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲27.3 と前回調査に比べて 3.8 ポイント下降している。業種別には、小売業が▲60.0 で 10 ポイント下降、製造業が 0.0 で前回調査と同じ、建設業が▲27.3 で 35.6 ポイント下降、サービス業が▲23.5 で 13.3 ポイント上昇、卸売業が 16.7 で 16.7 ポイント上昇であった。

1～3 月期見通しでは、全体で▲30.6 と 10～12 月期の実績に比べて 6.7 ポイント上昇となっている。

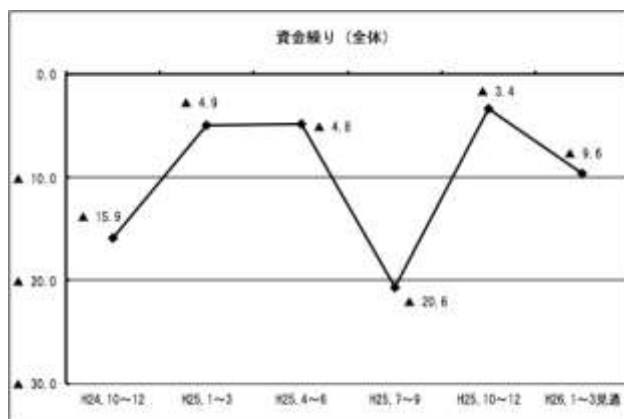
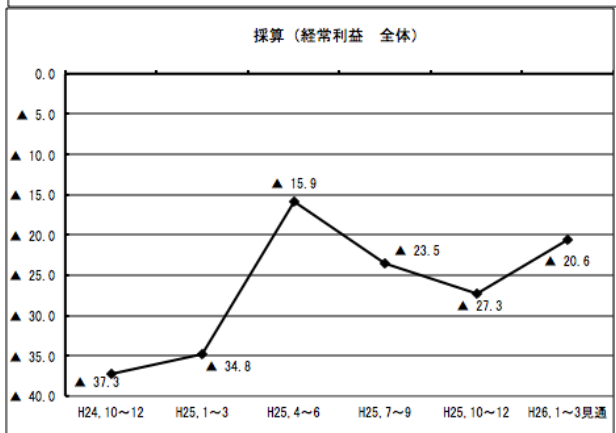
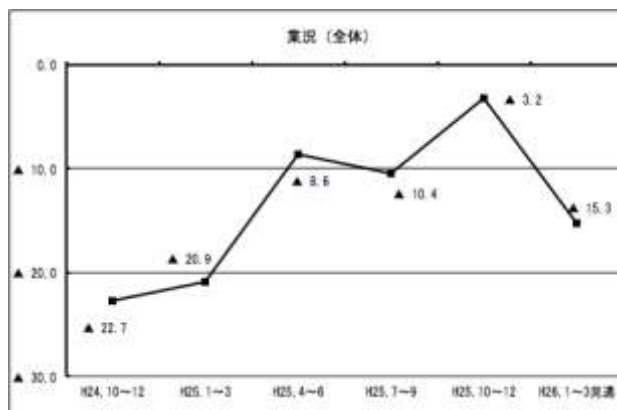
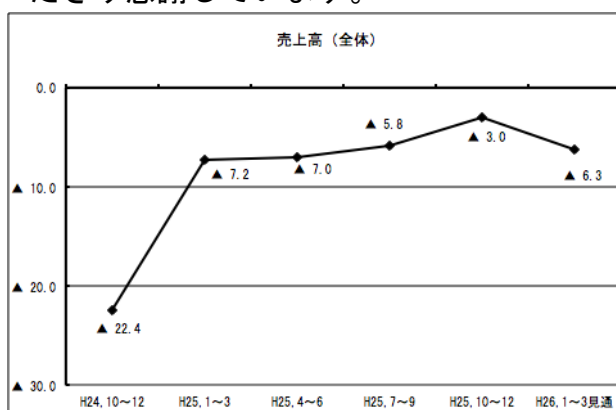
<資金繰り>

資金繰り DI は▲3.4 と前回調査に比べて 17.2 ポイント上昇している。業種別では、小売業が 12.2 ポイント上昇の▲21.1、製造業が前回調査と同じの 0.0、建設業が 0.8 ポイント下降の▲9.1、サービス業が 42.1 ポイント上昇の 14.3、卸売業が 33.4 ポイント上昇の 16.7 となった。

1～3 月期見通しでは、▲9.6 と 10～12 月期の実績に比べて 6.2 ポイント下降となっている。

<その他の意見>

- ・ 原発再稼働のための福島の検証
- ・ 大企業の都合により一定期間後取引停止をされている中小企業が多いと思われます。便利使いをされるのはいいのですが、契約期間についての取り決めをしないとダメではないでしょうか。
- ・ アベノミクスの経済効果に期待しつつ、オリンピック開催もあって国の財政支出が後々国民の首を締めつけないか心配な面もある。
- ・ 借金をして一時生活が豊かになっても後悔は見えている。今の日本経済の大盤振る舞いが後世にどうなるか、誰でもわかることである。無責任な人達のやることで今後の経済の見通しは暗いと言いきれる。やはり、質素な剛直な生き方に戻るしかない。そのためには、少々の生活の不自由は我慢したいものである。
- ・ 昨今、中山道周辺の店舗やたたずまい等にも商工会議所や市商観がスポットを当ててくださり感謝しています。



小売業

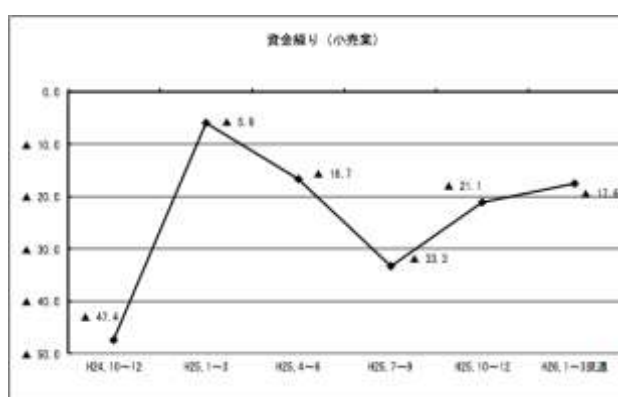
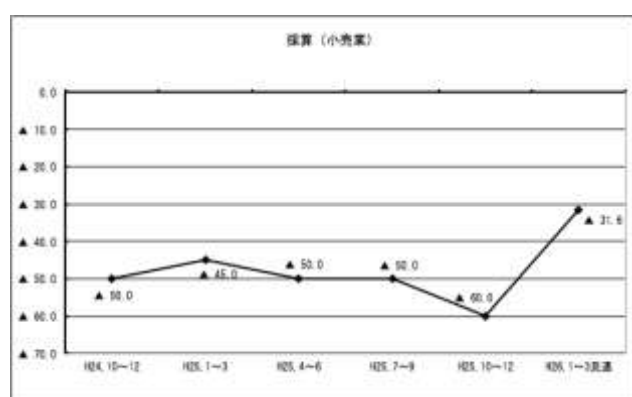
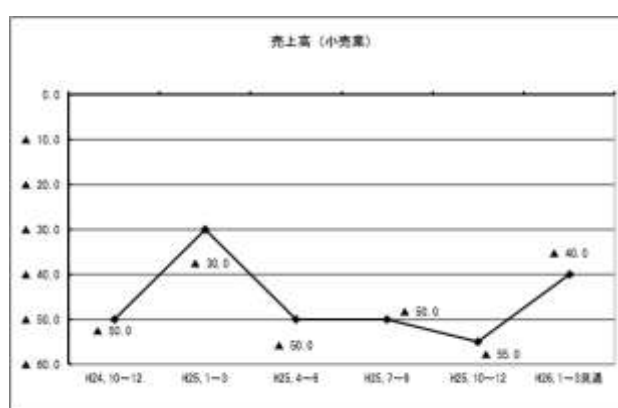
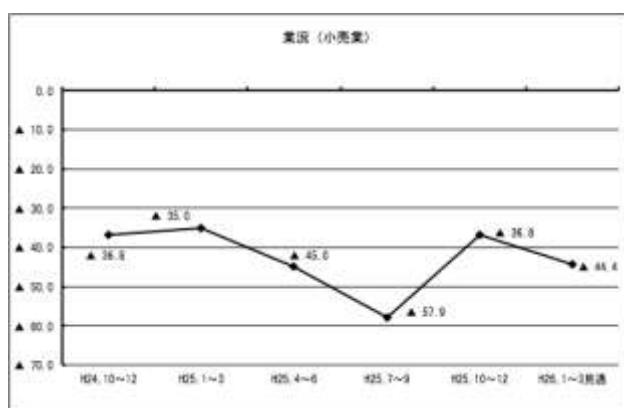
小売業の業況DIは▲36.8と前回調査より21.1ポイント上昇している。回答数のうち、15.8%が良いと回答しており、これらが小売業全体のDIを押し上げることとなった。しかし、平成26年1月から3月期見通しは▲44.4と下っており、良いと回答しているものの数が減少している。

売上高DIは、▲55.0で前回調査より5.0ポイント下降している。回答数のうち65%が悪いと回答しており、深刻な状態が続いているようである。1月から3月期は▲40.0に少し回復見通しであるが、数値としては良いとは言えない。

採算（経常利益）DIは▲60.0と過去1年で最低であった。前回調査から10ポイント下降している。▲50付近で推移していた採算DIであるが、ここにきてさらに悪化したようである。1月から3月期見通しは、▲31.6と28.4ポイントの回復であり、上昇度合は過去最高である。

資金繰りDIは、▲21.1と前回調査に比べて12.2ポイント上昇している。前回調査時点を底に回復しているようである。1月から3月期見通しもそれを示すように▲17.6となっている。

その他、気になる点は商品の仕入れ単価DIが31.6となっている点である。1/3以上の回答が仕入れ単価の上昇を指摘しており、今後の経営に影響が出てくる恐れがある。



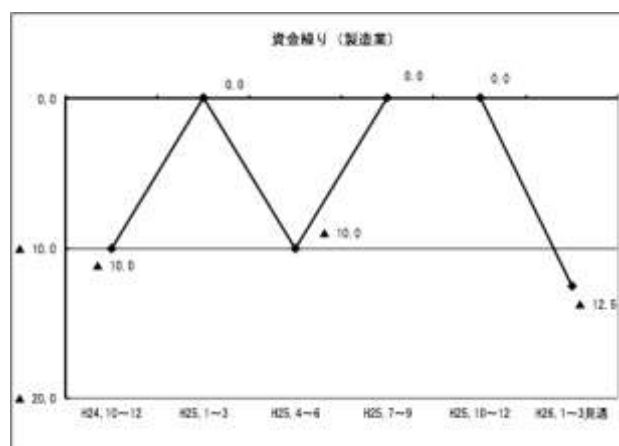
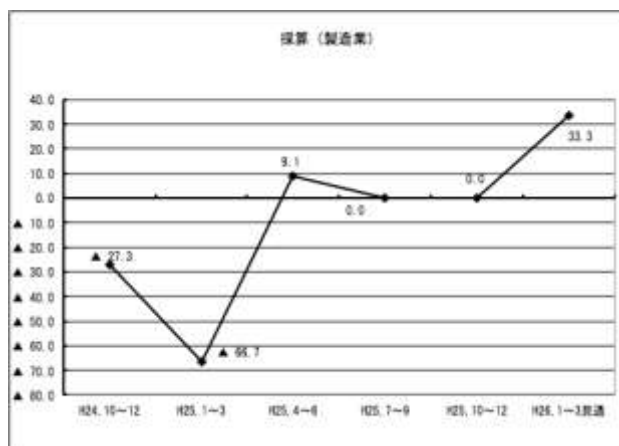
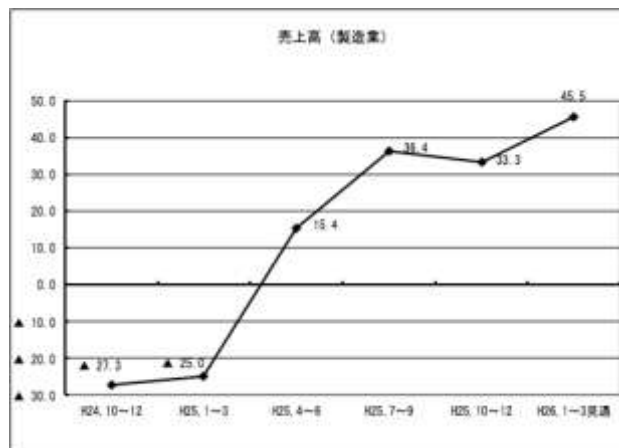
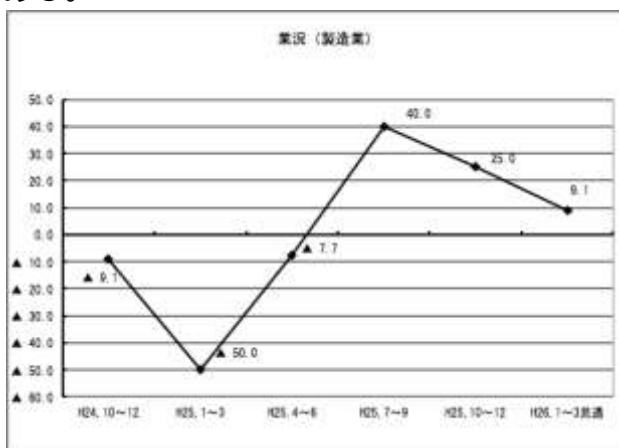
製造業

製造業の業況DIは25.0と前回調査より15.0ポイント下降した。前回調査に比べると下降はしているが、2四半期連続でプラスの数値となった。前回調査との違いは、業況が悪いと回答したものが16.7%あったことである。一方で良いと回答したものが40%超あったので、製造業全体ではプラスのDIとなった。1月から3月期見通しは9.1と下っており、見通しはあまり良くないようである。

売上高DIは33.3となり、前回調査より3.1ポイント下降した。下降したというものの、業況と同じくプラスの数値であり、悪いと回答したものは10%に満たない。1月から3月期見通しは45.5と上昇しているのので、製造業の売上は堅調のようである。

採算DIは0.0と前回調査と同じであった。しかし、材料仕入単価のDIでは83.3となっており、材料仕入単価が明らかに上昇しているのが気になるところである。採算の1月から3月期見通しは33.3と大きく上昇しているのので、現時点では材料仕入の値上がりは影響がなさそうである。

資金繰りDIは前回調査と同じく、0.0であった。この指標は比較的安定した動きをしている。1月から3月期見通しは▲12.5となっているが、通常の変動幅と見てよさそうである。



建設業

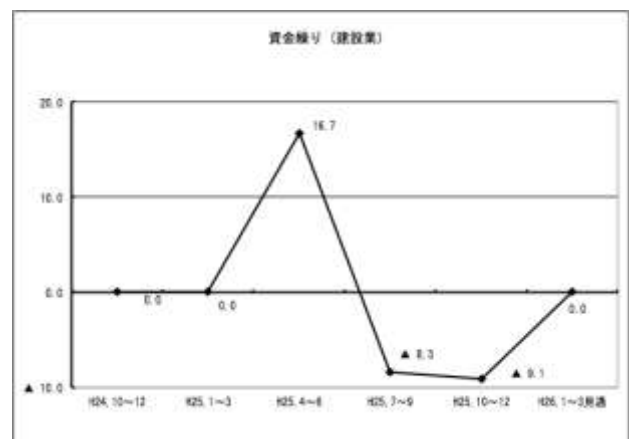
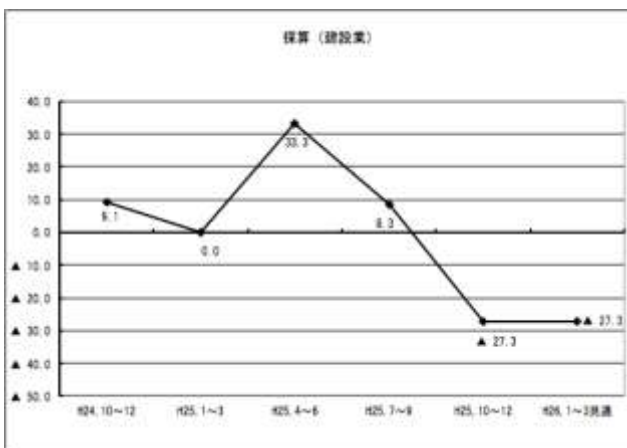
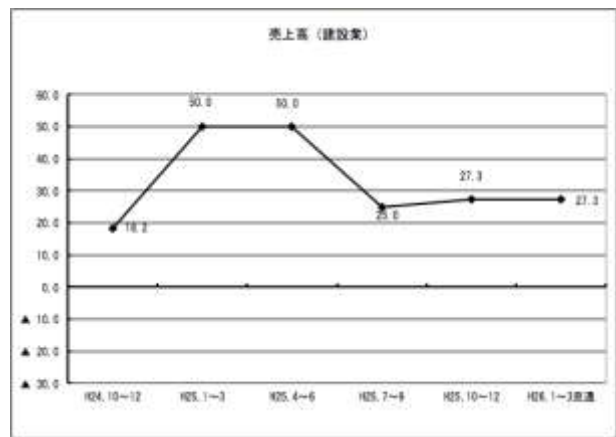
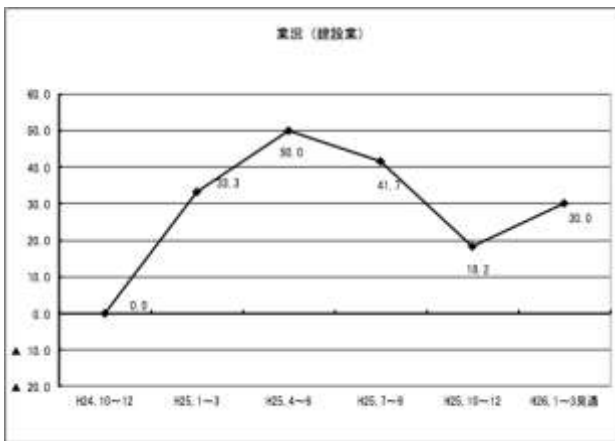
建設業の業況DIは18.2で前回調査より23.5ポイント下降した。平成24年10月から12月期

が0.0でその後、50.0まで上昇したが、2四半期連続で下降してしまった。それでもプラスの数値であるので、建設業全体では悪くはなさそうである。1月から3月期見通しは30.0と反転回復の数値となっていることでもそれがうかがえる。

売上高DIは、27.3と前回調査より2.3ポイント上昇した。2四半期前のように50.0まではいかないが建設業全体では売上高は堅調のようである。1月から3月期見通しも27.3なので、堅調さを持続できそうである。

採算DIは▲27.3と前回調査に比べて35.6ポイント下降しマイナスの数値となった。採算が悪化したという回答が良いとする回答の4倍になったのが数値に表れている。1月から3月期見通しも▲27.3なので、業況や売上高が堅調とは裏腹に採算は良くなっていないようである。

資金繰りDIは▲9.1で前回調査より0.8ポイント下降した。資金繰りは比較的安定した動きを見せているので、通常の変動範囲内と見ることができる。1月から3月期見通しは0.0である。



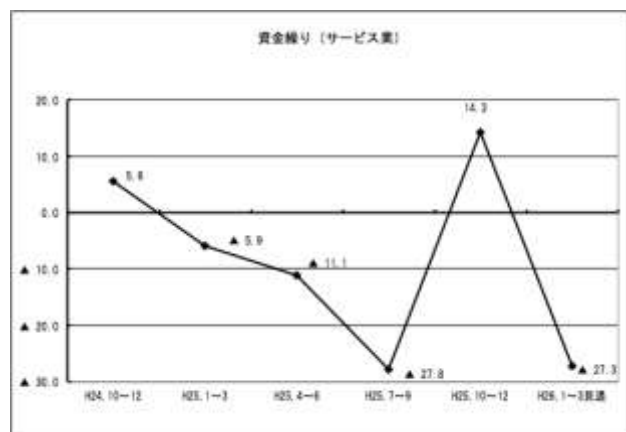
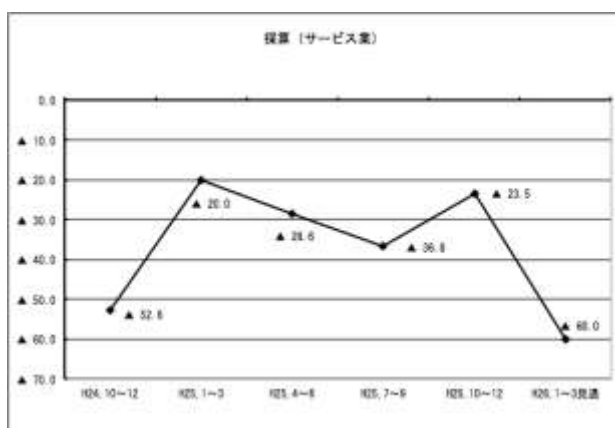
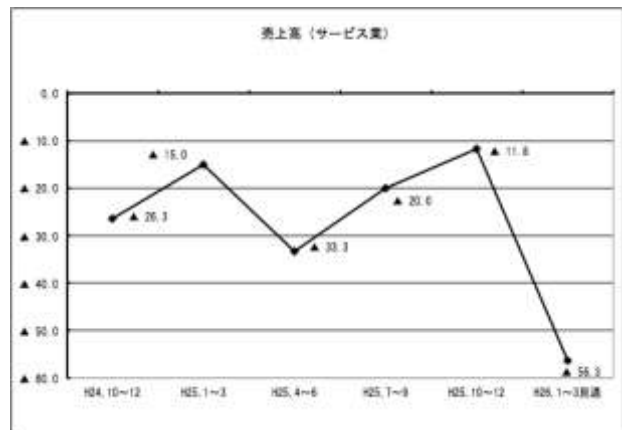
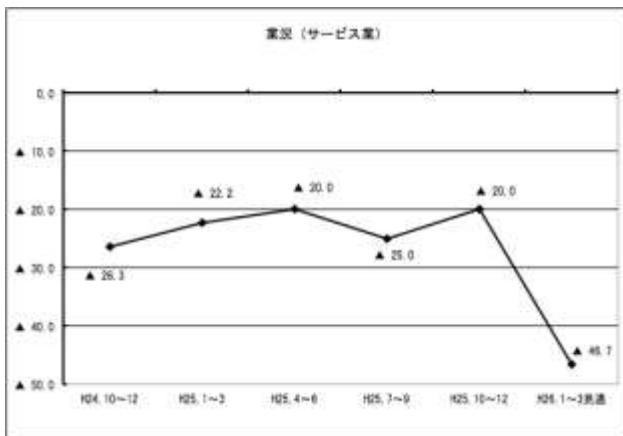
サービス業

サービス業の業況DIは▲20.0と前回調査より5ポイント上昇した。前回調査で下った分だけ持ち直したことになる。個別の回答を見ると、業況が良いと回答したものもいくつかあるので、業界全体が悪いというわけではないようである。1月から3月期見通しは▲46.7と大幅に数値が下降している。これは、見通しを良いと回答したものがなかったことになるものである。

売上高DIは▲11.8となり前回調査より8.2ポイント上昇した。2四半期連続の上昇である。しかし、1月から3月期見通しが、▲56.3と大きく下降しているので、かなり注意が必要である。

採算DIは▲23.5と前回調査より13.3ポイント上昇した。3四半期振りの上昇である。しかし、1月から3月期見通しが▲60.0と極端に悪くなっており、業況、売上高、採算のどの観点から見ても見通しが暗そうである。

資金繰りDIは14.3であり前回調査より42.1ポイントの大幅上昇となった。売上高、採算ともに10月から12月期は数値が改善しているのので、それに連動する形で上昇したようである。1月から3月期見通しは▲27.3であり、他の指標と連動する形で資金繰りも悪化しそうである。



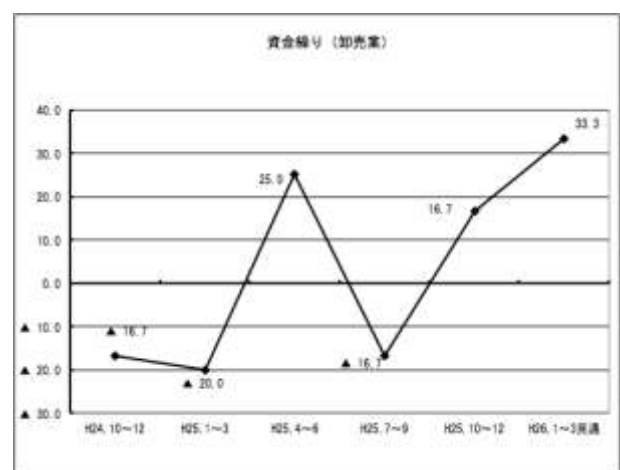
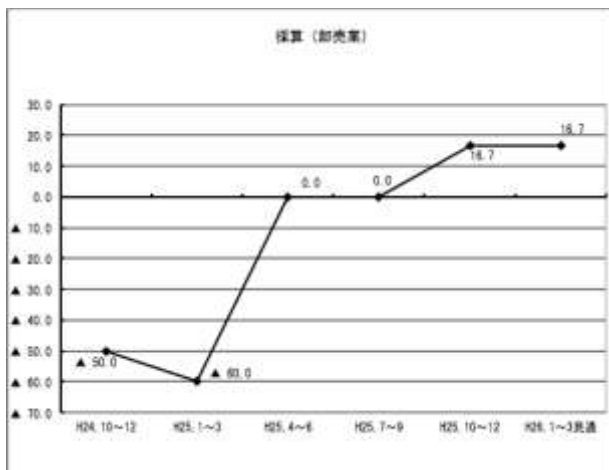
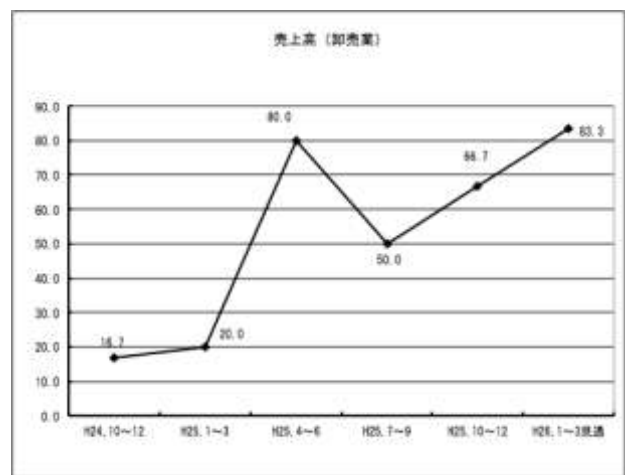
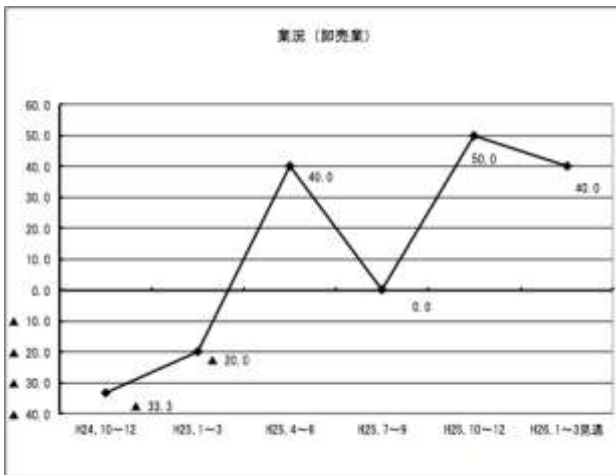
卸売業

卸売業の業況DIは50.0と前回調査より50ポイント上昇した。今回調査では、業況が悪いという回答が見当たらず、卸売業は好調と見ることができる。1月から3月期見通しも40.0で好調さを維持できそうである。

売上高DIは66.7で前回調査を16.7ポイント上回った。業況と同じく好調さが出た結果であった。1月から3月期見通しも88.3とさらに好調が拡大すると見通されている。

採算DIは16.7となり、前回調査より16.7ポイント上昇した。業況、売上高の好調さが採算にも表れているようである。過去は採算の指数がプラスになっていなかったことを考えると、かなり採算も良くなっているようである。1月から3月期見通しも16.7であり、好調さが持続される見込みである。

資金繰りDIは16.7となり、前回調査より33.4ポイント上昇しプラスの数値となった。他の好調な指標と同じように動いている。1月から3月期見通しは33.3とさらに上昇が見込まれている。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	10～12月 期動向	1～3月期 見通し	10～12月期 動向	1～3月期 見通し	10～12月期 動向	1～3月期 見通し
全 体	▲3.2	▲15.3	▲3.0	▲6.3	▲27.3	▲20.6
小売業	▲36.8	▲44.4	▲55.0	▲40.0	▲60.0	▲31.6
製造業	25.0	9.1	33.3	45.5	0.0	33.3
建設業	18.2	30.0	27.3	27.3	▲27.3	▲27.3
サービス業	▲20.0	▲46.7	▲11.8	▲56.3	▲23.5	▲60.0
卸売業	50.0	40.0	66.7	83.3	16.7	16.7

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	10～12月期 動向	1～3月期 見通し	10～12月期 動向	1～3月期 見通し	10～12月期 動向	1～3月期 見通し
全 体	7.7	12.5	▲1.6	▲7.9	1.6	0.0
小売業	▲15.0	▲11.1	▲33.3	▲27.8	▲17.6	▲17.6
製造業	33.3	50.0	8.3	8.3	25.0	25.0
建設業	20.0	18.2	30.0	36.4	0.0	▲9.1
サービス業	▲11.8	▲17.6	▲18.8	▲43.8	0.0	6.7
卸売業	66.7	83.3	66.7	66.7	16.7	0.0

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	10～12月期 動向	1～3月期 見通し	10～12月期 動向	1～3月期 見通し	10～12月期 動向	1～3月期 見通し
全 体	▲3.4	▲9.6	6.1	4.3	8.5	6.5
小売業	▲21.1	▲17.6	0.0	0.0	0.0	0.0
製造業	0.0	▲12.5	20.0	11.1	20.0	11.1
建設業	▲9.1	0.0	▲10.0	0.0	0.0	10.0
サービス業	14.3	▲27.3	18.2	9.1	18.2	8.3
卸売業	16.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

